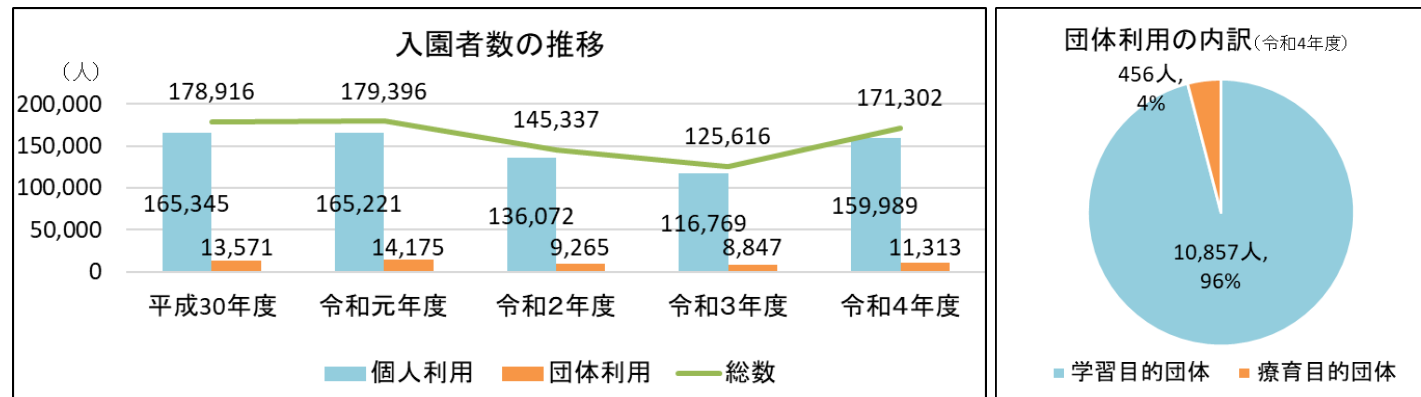


おびひろ動物園の取り組み

現 状と課題

おびひろ動物園は、市街地のほぼ中心にある緑ヶ丘公園の一角に位置し、アクセスのしやすい環境にある。

近年の入園者は、新型コロナウイルスの影響のあった期間を除き、年間約17万人で推移している。団体利用は、保育園・小学校等の学習目的と、障害者施設等の療養目的による利用がある。



かつての動物園の役割はレクリエーションが主体であったが、現在は環境・情操教育、種の保存なども重要な役割となっており、動物が快適に暮らせるための動物福祉への配慮が必須となってきている。

課 題

- ◆ 地域の特徴を活かした独自性のある展示の充実
- ◆ ホッキョクグマ舎、シマウマ舎などの老朽化した獣舎の更新
- ◆ ホッキョクグマなどの希少種の繁殖に必要な技術、設備の確保
- ◆ 飼育・繁殖技術の向上と継承及び人材確保
- ◆ ソフト事業（スポットガイド、ふれあい体験、学習機会）の充実
- ◆ 大型遊具の長寿命化

令和5年度の取り組み

- ✓ 9月、新キリン舎建設工事着工（令和6年8月完成予定）
- ✓ 9月末、寄附によるビジターセンター「ハピネスホーム」完成、10月14日供用開始
- ✓ 10月末、60周年記念誌発行
- ✓ 10月末、馬ふれあい舎完成、11月上旬、ばん馬2頭導入、12月2日お披露目
- 2月、東エリアトイレ完成予定（災害時に移設できる自立型可動式ハウスを活用）

お びひろ動物園の魅力アップに向けて（方針）の5本の柱と取り組み状況

1 十勝おびひろの特色を生かした展示

- ばん馬など十勝ゆかりの動物や寒冷地に生息する動物を軸に地域特性を活かした展示の充実を図る。
- 限られた動物種であることを他園との差別化を進めるきっかけと捉え、飼育環境の整備や健康管理をしっかりと行うことで、動物を大切にする動物福祉に配慮した動物園としての価値を高める。
- 飼育員の人材育成・ノウハウの継承を図る。
 - ・ 飼育ミーティングの実施やマニュアル作成
 - ・ メール等による他園との情報交換
 - ・ 園内での細かな情報共有による技術や知識の継承
 - ・ 視察などによる情報収集
 - ・ 全国の動物園飼育員が参集する研究会への参加 等

2 地域に根差した学習機会の提供

- ボランティア（帯広畜産大学 Zooful 等）との連携。

土日祝日を中心に、ちびっこふぁーむでの手伝いや、園内ガイドやスタンプラリーなど来園者が楽しめるイベントの企画実施。
- モルモットやばん馬とのふれあい体験を実施。

動物のぬくもりや体の動きをじかに感じることで、命の大切さを学び、新鮮な驚きと喜びを実感できる体験学習。（主な対象：保育園や小学校低学年、高齢者施設等の団体客）
- SNSによるタイムリーな情報発信。

飼育員が発信する動物の日常の様子はメディアで頻繁に取り上げられ、X（旧 Twitter）のフォロワー数は一時期7万人超に。中には全国的に話題となり約190万回再生された動画もあり、来園者増につながっている。

3 全ての人にやさしい施設整備

- 17万人の来園に対し、1.1万人ほどが団体客となっている。保育園・小学校等での学習目的利用は団体客全体の96%と圧倒的多数。その他は障害者施設等での療養目的が4%程度。
- 乳幼児から高齢者まで全ての利用者に配慮した施設整備。

休憩所機能を兼ねたビジターセンター（R5.10寄附）や、園路の整備（R3～R7）、災害時に被災地への移動が可能なムービングハウスを活用したバリアフリートイレ・多目的トイレの整備（R6.2完成予定）。

4 食の充実

- 園内にキッチンカーを導入（R元～）。多様な飲食事業者の導入による利用者満足度の向上。
- 帯広商工会議所との連携による、動物をモチーフにしたグルメの提供（市内飲食店）。

5 企業等との連携・協働

- 企業の地域貢献活動による園内環境整備（パンフレット、看板、塗装等）。
 - 企業や団体、個人からの寄附等を活用した施設整備
- 【おびひろ動物園ゆめ基金活用事例】
- R3 アザラシプール改修、R4 キリン舎外放飼場柵設置、馬ふれあい舎・新キリン舎実施設計
R5 新キリン舎着工、馬ふれあい舎完成（R5.10）、東エリアトイレ整備（R6.2完成予定）